

製品名: DYHC1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10217**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	511kDa

抗原情報

遺伝子名	DYNC1H1
別名	DHC1 DNCH1 DNCL DNECL DYHC KIAA0325
遺伝子 ID	1778.0
SwissProt ID	Q14204
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

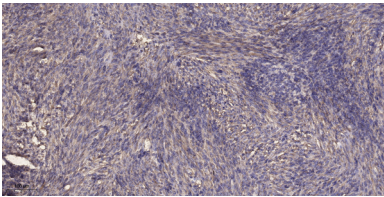
ダイニンは、分子モーターとして機能する微小管活性化ATPaseの一群です。軸系ダイニンと細胞質ダイニンの2つのサブグループに分けられます。細胞質ダイニンは、軸索輸送、タンパク質選別、細胞小器官の運動、紡錘体のダイナミクスといった細胞内運動に関

与します。従来の細胞質ダイニン分子は、2つの重鎖ポリペプチドと、複数の中間鎖および軽鎖から構成されています。この遺伝子は、細胞質ダイニン重鎖ファミリーのメンバーをコードしています。[RefSeq 提供、2008年10月],domain: ダイニン重鎖は、N末端ステム（貨物を結合し、他のダイニン成分と相互作用する）と、ヘッドドメインまたはモータードメインから構成されると考えられます。モータードメインは、ヘッド内に6つのAAAドメインが直列に連結し、リングを形成しています。AAA 4とAAA 5の間には、2つのコイルドコイルドメインから形成される茎状の構造が突出し、微小管結合部位で終結する。7番目のドメインもこのリングに寄与している可能性があるが、この追加ドメインがN末端側かC末端側かは不明である。AAAドメインごとに1つずつ、よく保存されたATPase部位が4つ、保存されていないATPase部位が2つ存在する。おそらくこれらのうち1つ（AAA 1内）だけが実際にATPを加水分解し、その他は調節機能を果たしていると考えられる。機能: 細胞質ダイニンは、微小管に沿った小胞や細胞小器官の細胞内逆行運動のモーターとして機能する。ダイニンはATPase活性を有する。力を生み出すパワーストロークは、ADPの放出時に発生すると考えられています。類似性:ダイニン重鎖ファミリーに属します。サブユニット:少なくとも2つの重鎖と、いくつかの中間鎖および軽鎖で構成されます。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した（4°Cで一晩）。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した（室温、45分）。